

春日神社

もくじ

宮司挨拶
祭典ごよみ
感激の皇居勤労奉仕
研修旅行に参加
全国敬神婦人連合会大会に参加
表彰・人事
トピックス
 飾り金具の取り付け
 鈴緒の奉納
 雅楽会活動
初詣のご案内
春日の杜散策

社報 春日神社

第十八号

発行日 平成24年12月15日
発行者 〒870-0031
大分市勢家町4-6-87
春日神社 宮司 宮本隆之
TEL 097-532-5638
題字 東郷平八郎

ご挨拶

宮司 宮本 隆之

殊の外例年より早く冬の訪れを感じる師走を迎えています。皆様におかれましては如何な年の瀬をお過ごしでしょうか。月日が経つのは早いもので、つい先日寒さで梅の開花が遅れ、心地良い春が待ち遠しいと思っていたのですが、暑い夏が過ぎ、慌しさの中でもう正月の準備に追われています。さて、この一年を振り返りますと、今年は「古事記」編纂千三百年という節目の年でありました。古事記は現存する日本最古の歴史書であり、皇室や国家の起源に関する話や、神代における天地の始まり等が躍動感あふれる文章で記されています。この節目の年にあらためて日本文化の源といえるこの書を通じ、日本人の真の魂を取り戻すべく神話の普及に力を注いでいるところでもあります。

当社と致しましては、秋に第五回目となる皇居勤労奉仕団を結成して奉仕活動をおこなって参りました。春先の手術を無事終えられた天皇陛下と皇后陛下お揃いでの御姿を拝し、御会釈に際して有難くも本県夏の大水害の御心配を頂戴致しまして、感激そして感謝の気持ちに涙が出そうになりました。御会釈の最後には前回に続き万歳三唱先達の榮に浴し、団員の代表として声高らかに真心込めて努めさせて頂きました。また宮繕では御鎮座千五十年記念事業の継続として、春先より社殿廻りの改修工事を手掛けました。参拝者の利便を考えて向拝部分を拡張して車イススロープを設けたほか、秋には儀式殿・社務所の破風の装飾を行う等、新しい年にお参りいただく準備が調ってまいりました。

来る年はいよいよ国民が本宗と仰ぎ奉る伊勢の神宮では、第六十二回式年遷宮正殿遷座の儀が斎行されます。加えて国民広くご神徳をいただいております出雲大社でも六十年ぶりの大改修が終わる、本殿遷座祭が執り行われます。日本人の心のふるさととされるこの二社での御遷宮が、厳粛且つ盛大に斎行されますことを皆様共々願うところでありますし、この慶賀の年が氏子崇敬者皆さま方にとりまして輝かしき年となりますことを心よりお祈り申し上げまして、歳末号発刊の挨拶と致します。

祭典ごよみ

年末から春にかけて執り行われる恒例祭です。

十二月二十三日 天長祭

天皇陛下の誕生日をお祝いする祭典です。巫女舞「豊栄舞」を奉納します。

十二月三十一日 大祓式・除夜祭

一年間を締めくくり、罪穢れを祓つて清々しく新年を迎えるための祭典です。

一月 一日 歳旦祭

元旦にあたり、皇室の弥栄と国家の繁栄、氏子崇敬者の幸せをお祈りします。

二月 九日 初午祭（摂社 稻荷神社）

本殿の西側に鎮座するお稲荷さんの例祭です。

二月十一日 紀元祭

日本の国の誕生を祝う祭典です。雅楽の伴奏で国歌を斉唱します。

二月十七日 祈年祭

本来は農耕儀礼に基づくお祭りですが、今日では稲作のみならず殖産工業すべてに亘って、この一年間の恵みを願う祭典です。

四月十二日 春季大祭宵祭

春の大祭のうち、前日祭です。二日間にわたる庄内神楽が奉納されます。

四月十三日 例祭

神社で一番重要な祭典です。神社本庁からの献幣使を迎えて執り行われます。

四月二十九日 昭和祭

昭和天皇の御誕生日にあたり、御聖徳を仰ぐ祭典です。

五月 一日 摂社金比羅社祭

本殿東側に鎮座するこんびらさんの例祭です。

感激の皇居勤労奉仕

春日神社総代 後 藤 則 義



■はじめに

春日神社では以前より総代、敬神婦人会など神社関係者から参加者を募って隔年で皇居の勤労奉仕を行なってきましたが、本年はその開催年にあたり十月二十二日から二十七日までの日程にて、奉仕団二十一名の参加で開催されました。今回で五回目ということでしたが、私は初めて参加をさせて頂きました。

出発は午後からでしたが、成功が約束されたかのような晴天に恵まれ、期待に胸を膨らませながらバスに乗り込みました。春日神社から大分空港、飛行機にて羽田空港へ向かいました。再度バスに乗り換える頃には日も暮れはじめ、大都会東京の夜景を楽しみながら宿に到着、結団式を行い翌日からの奉仕活動に思いをはせながら床につきました。

■奉仕一日目 皇太子様の御会釈とディナークルーズ

勤労奉仕は四日間の日程で行われますが、その内一日は赤坂御用地での奉仕となります。今回は初日がその日になっていましたので、少し早めの五時四十分には起床し七時二十分に出発しました。秋の園遊会を控えて準備の進む中を担当の職員さんの案内を受けながら赤坂御苑を見学させて頂きました。その後の奉仕作業では、東京から参加した大学生の団体と一緒に清掃作業を行いました。若い人たちのきびきびとした動きについて行くのはなかなか大変でしたが、引つ張られるようにこちらも奉仕の力が入りました。また、彼らの立ち居振る舞いも気持ちの良いもので、まだ日本にも礼儀正しいさわやかな若者達が大勢いるのだと大変うれしく又、たのしく感じられました。休憩所にての昼食のさなかに突然大雨となり、午後からの作業を心配しましたが、開始時間に合わせるかのように雨も上がり、日頃の行いの良さの表れとうれしく思いました。午後には同日から参加の四団体と共に皇太子殿下の御会釈を賜ることが出来ました。

初日の奉仕も無事に終わり、夕食は東京湾での船上ディナークルーズ。小雨の降る中でしたが、船上から見る幻想的な東京の夜景と、今年開通したばかりの通称恐竜橋とも呼ばれる東京ゲートブリッジをくぐりながら見上げる迫力を肴に、お酒も食事も美味しく頂きながら、夢のようなひとときを過ごしました。

■奉仕二日目 宮殿ならびに長和殿

二日目からはいよいよ皇居での奉仕活動となり、この日は宮殿周辺の清掃活動を行いました。テレビなどでよく見る長和殿の大きさに驚き、宮殿周辺の庭園の美しさに目を奪われながら、この場で奉仕できる喜びをかみしめつつ作業を進めました。日頃、歩くことも少なくなってきた体は、この夜半あたりより疲れと痛みを感じる様になりましたが、天皇皇后両陛下にお目にかかれる事を楽しみに頑張ろうと思いました。

■奉仕三日目 吹上御所での奉仕

三日目は、皇居のさらに奥へ進み吹上御苑での奉仕でした。休憩所となっていた窓明館から奉仕場所への移動は当然徒歩なのですが、広大な皇居内は自然も豊かで、まるで山中に分け入ったかのような錯覚すら覚えました。今回が初めての参加でしたので、どのような場所で奉仕活動を行うのか余り分かっていなかったのですが、この日は天皇皇后両陛下のお住まいでもある御所の間近まで案内して頂いたため、ひととき緊張しながらの奉仕活動となりました。うつそうとした木々に囲まれているため、道路や側溝の落葉、小枝などの清掃作業が



中心でした。さすがに紙くずやチリなどは無く、砂利道の清掃では京都は龍安寺、枯山水の石庭の手入れよろしく、陛下が初めに歩かれる事を思い願いつつ心を込めて目立てをさせて頂きました。

また移動の際には、宮中三殿に参拝し、天皇陛下が御田植えをされる水田や皇后陛下御給桑の桑畑を見学し、大道庭園では徳川三代將軍ゆかりの「五葉松」をはじめとする由緒ある盆栽の数々をご案内を頂きました。皇室と日本の悠久の歴史に思いをはせるとともに、両陛下の深いお心をあらためて感じることの出来た一日となりました。

さらにこの日は奉仕終了後に国会議事堂を見学。盛りだくさんの研修に疲れも忘れてただただ驚きと感心の連続でした。

■奉仕四日目

天皇皇后両陛下の御会釈に感激

四日目は奉仕活動の最終日でしたが、皇居東御苑での奉仕活動となりました。日頃から一般公開されているため、公園として整備されており、見学が主となりました。同心番所から百人番所、二の丸庭園から香淳皇后様ゆかりの桃華楽堂と宮内庁楽部と様々な施設を案内して頂きましたが、天守閣跡や大奥跡、松の廊下跡では、当時の江戸の様子を想像しながら、ひととき時代劇の登場人物になったつもりで楽しめました。また、二の丸庭園の見学時には偶然二頭立馬車の訓練に、また天守閣跡の見学時には皇宮警察のオートバイの訓練に遭遇しましたが、奉仕活動期間中に案内頂いた職員さんはじめ、多くの皆さんが皇室の護持のために日々務めを果たされているのを間近に見聞きして、四日間ではありますがそこに参加をさせて頂ける大きな喜びをあらためて感じた場面でした。

この日の午後には、天皇皇后両陛下の御会釈を賜ることになりました。会場の蓮池参集所には私達を含め五団体の奉仕団が入り、職員の方より注意事項の説明を受け、待つこと四十分、両陛下が専用車で待合所にお着きになられまし

た。最初に皇后様のお姿が目に入りましたが、その瞬間言葉にならない感動に包まれ熱い物がこみ上げて来ました。次いで、天皇陛下がお車から降りてこられました。御慈愛に満ちた御姿に日本人に生まれて本当に良かったと心から思いました。私達は四番目に御会釈をいただきましたが、宮本宮司様の「大分より二十一名でまいりました」との挨拶に、「大分の水害はどうだったですか」とのお尋ねのお言葉を賜り、宮本宮司様が「大分の北部の方がかなり被害に遭いましたが一生懸命にがんばっており、随分復旧しました」とお答えしました。最後に五団体を代表して宮本宮司様が「天皇陛下皇后陛下万歳」と先導し、合わせて五団体二百人余りが万歳三唱を唱和しました。自分はその時、万歳の声も出ず万歳の思いに胸が詰まり、ただただ涙をながすばかりでした。

■箱根温泉での慰労と箱根神社参拝

奉仕活動の日程を終えた一行は、その後バスにて箱根に向かいました。宮本宮司様の計らいで、温泉にゆつくりとつかりながら奉仕活動の疲れを癒やすことが出来ました。夜の懇親会では互いに労いながら、参加できた喜びや感動そして思い出を夜更けまで語り合いました。

行程最終日は、午前中に箱根神社に正式参拝をしました。山岳信仰の一大霊場で天平宝字元年（七五七年）に創建、箱根権現と称された古社で早朝にも関わらず参拝者も多く、歴史を感じさせる神社でした。昼食は横浜中華街にて中華料理を堪能して羽田空港へ、夕刻に神社に帰り着きました。今回の皇居勤務奉仕団での六日間は、日常では出来ない得がたい皆さんの経験をすると共に、神社に関わりながら今の日本を生きる有り難さと喜びをあらためて感じた、有意義で心に残る旅となりました。



春日神社研修旅行に参加して

春日神社氏子青年会 津末和剛



毎年、紅葉の美しい時期に実施しているこの研修旅行ですが、去る十一月十九・二十日の二日間にかけて久留米・玉名・山鹿方面にて開催されました。

私は氏子青年会会員ながら、仕事柄添乗員として毎年同行させて頂いております。本年も宮本宮司を始め、総代・敬神婦人会・氏子青年会などから計二十四名が参加、例年に倣いお世話させて頂きました。早朝に神社を出発したバスは、一路福岡県久留米市へと向かいます。まず訪れたのは、全国水天宮の総本社として知られる水天宮です。御本殿での正式参拝に続いて、真木宮司様から由緒等の案内がありました。神社横を流れる大河の筑後川には、古くから河童が住むと言い伝えられており、神社では「ひょうたん御守」が授与されているとのこと。この御守は小さい子どもが川で遊ぶ際に、水難に会わないようにとの願いが込められているそうです。また、神社の社紋「椿」にちなんで境内に多品種の椿が植えられており、初春には美しい花が咲きほころぶことから、毎年多くの参拝者が訪れるとのこと。職員の皆様方に見送られて、次の目的地である熊本県玉名市へとバスを走らせました。

玉名市は玉名温泉として有名な町です。私たちは市内中心部に鎮座する繁根木八幡宮へ向かいました。本殿前には築四百年にもなる二層式の楼門が聳えており、その佇まいは大変見事なものでした。岩間宮司様お一人でご奉仕されているとのことですが、境内は美しく掃き清められ清々しい気持ちになりました。続いて、私たちは同市の蓮華院誕生寺を拝観後、本日の宿泊先「司ロイヤルホテル」へと入り、参加者全員による懇親会を開催し、懇親の輪を広げました。

二日目、ホテルを出発して玉名市隣接の山鹿市へ。まず山鹿灯籠で有名な大宮神社への参拝です。正式参拝後、杉谷宮司様の案内のもとで境内灯籠館を拝観しました。山鹿灯籠といえば、灯籠おどりの際に女性の頭に付けるものだけを指すのだと思っていましたが、その他にも神社や建物を模った「御殿灯籠」があり、その絢爛豪華さに一同見とれてしまいました。ちなみに御殿灯籠は、翌年、抽選で神社より払下げられるとのこと。その後、神社近くの八千代座と山鹿灯籠館見学。とりわけ国重要文化財指定となった八千代座の保存活動には共感することしきりでした。市内で昼食をとり、午後からは避暑や紅葉の名所として知られる菊池溪谷を散策。終えて春日神社への帰路となりました。

今回の旅行では、当初の目的通りに研修と親睦を充分に行えましたが、なによりも旅先での事故や病気もなく、全行程を無事に終えることができましたのも春日様の御加護と厚く感謝申し上げます。

全国敬神婦人大会に参加して

春日敬神婦人会 副会長 平野 邦子



去る十月三十一日と十一月一日の二日間、格好の秋日和に恵まれて、第六十三回全国敬神婦人大会が京都で開催され、大分県から私たち春日敬神婦人会の会員六名が参加してまいりました。

会場となった国立京都国際会館には全国から千八百余名が出席、開会に先立ち芸奴さん三十名による「手打ち」で盛大にお迎え頂きました。式典では「国歌斉唱」や「敬神生活の綱領」に続き、全国敬神婦人会長の北白川慶子様から式辞が述べられたのち、ご来賓の祝辞を頂きました。そして資料に基づいての議事が事務局によって進められて無事に閉会となりました。

夕方からの懇親会では、まず芸奴さんの「紅葉売」と舞妓さんの「祇園小唄」の清興があり、神社本庁総長のご挨拶のもとに宴が始まりました。和やかな雰囲気の中、各テーブルには芸奴さんと舞妓さんが回ってくれましたが、その中に別府出身という十八歳の舞妓さんがおられて話はずみ、よりいっそう楽しいひと時を過ごすことができました。

二日目は石清水八幡宮へ、麓からケーブルカーに乗って参拝しました。神職のご案内があり、江戸時代の伝説の名工左甚五郎の作と言われる猿の彫刻を拝見。その後松花堂庭園を散策、ここは松花堂弁当発祥の地であり昼食を頂きました。午後からは宇治の平等院鳳凰堂にも立ち寄りましたが、修復中の為に建物を目にすることは出来ませんでした。紅葉には少し早かったのですが、二日間ながら秋の京都を楽しむことが出来ました。今回の大会参加を通じて、伝統と文化にあふれた京都、ひいては日本の美しさを改めて感じた次第です。

(この報告文は大分県神社庁報第十一号にも掲載されました)

表彰・人事

表彰

● 神宮司庁表彰

○ 神宮大麻全国頒布百四十周年記念表彰

平成二十四年九月十七日付

宮 司 宮 本 隆 之

責任役員 丸 尾 啓 一郎

● 大分県神社庁大分支部長表彰

平成二十四年十一月二日付

○ 二十年勤続表彰

責任役員 川 崎 安 太

総 代 秋 川 信 彦

○ 十年勤続表彰

総 代 森 孝 (恵美須社)

総 代 森 裕 英 (恵美須社)

総 代 佐 藤 臻 司 (王子神社)

人事

● 神社本庁辞令

友 岡 郁 夫

春日神社権禰宜を免ずる

(西宮市熊野神社権禰宜に転出)

平成二十四年九月三十日付

青 井 宏 之

春日神社権禰宜に任ずる

(日進市白山宮権禰宜より転入)

平成二十四年十月一日付

● 鈴緒の奉納

御本殿向拝に二本の鈴緒が取り付けられていますが、現在のものが二十年を経過して傷んできたことから、此の度、お正月に向けて取り替えられました。奉納されたのは㈲ミリオン美容室会長の甲斐千代子様と藤原塗装㈱並びに大分ビル管理㈱社長の藤原忠和様です。甲斐様は前回に続いて、藤原様は御尊父様の御意志を引き継いで、といずれも永年にわたって格別にご崇敬をお寄せ頂いています。



● 千百五十年祭記念

社殿の飾り金具取り付けを実施

式年祭を斎行した昨年、記念事業として御本殿内格天井の藤絵彩色を行いました。時間的な都合により先送りとなっていた儀式殿ならびに社務所玄関の飾り金具の取り付けを、一年遅れではありますが此の度実施致しました。

本年春には御本殿前の石段拡幅と車椅子用のスロープを設置したことで、ゆったりとした社殿周りの景観向上とともに、七五三を始めとした参拝者が集中する場合での安全性と利便性、また何より高齢者のお参りに大変好評を頂いています。今回、一連の境内整備事業である破風金具や六葉金具の取り付けにより、春日の杜に包まれた各社殿の美しさが増して、いっそうおごそかな佇まいとなりました。



● 蓬萊雅楽会の活動から



本年が日本・モンゴル外交関係樹立四十周年にあたることから、その記念事業のひとつとして、大分人材育成・地域文化交流協会の主催により「人と自然が共生した潤いと活力のある地域創造 交流ステージイン大分」が十二月二日に開催され、本会と宇佐神宮とで舞楽「陵王」を演奏しました。会場である別府ビーコンプラザ フィルハーモニアホールは、日・モ双方の全権大使や多くの観客でうめられ、日本側の演目として、宇佐神宮鎮疫祭(御心経会)で毎年舞われる「陵王」を、本会の全面的な演奏で披露したのに続き、主催者による式典や記念講演、そして馬頭琴などを織り交ぜたモンゴルの歌や演奏が行われ、両国の文化交流の場となりました。

初詣のご案内

例年三が日の初詣参拝者は約三十万人を数えます。本年もこの多くの方々をお迎えするべく準備にかかりました。熊手や福笹・干支土鈴など数多くの縁起物がある中、社務所内では神職巫女が手分けをして連日破魔矢の奉製作業を行っています。

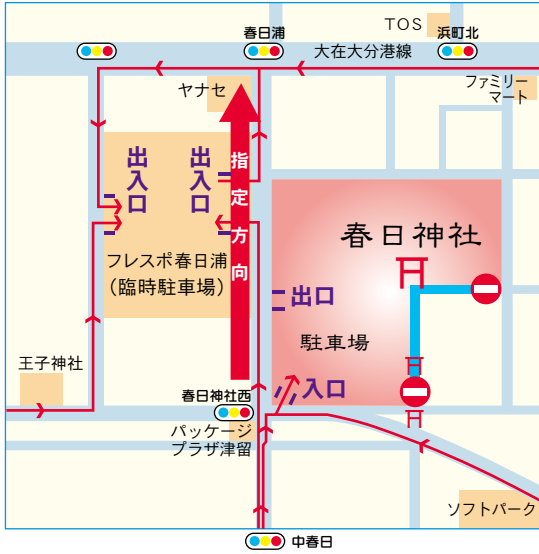
駐車場は境内春日公園を開放するほか、隣接の「フレスポ春日浦」も利用できますが、大晦日から周辺の進入路について規制が行われますのでご注意ください。また、企業団体等の新年祈願祭について、電話にて事前予約をお受けしていますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

◎指定車両以外進入禁止

12月31日午後9時より 1月7日午後3時まで

◎指定方向規制

12月31日午後11時より	1月1日午前5時まで
1月1日午前10時より	1月1日午後7時まで
1月2日午前10時より	1月2日午後7時まで
1月3日午前10時より	1月3日午後7時まで



国道10線の中春日交差点から春日神社に向った場合、右車線は春日公園内駐車場へ、左車線はフレスポ春日浦駐車場への進行となります。

問い合わせ

春日神社社務所 ☎ 097 (532) 5638



春日の杜

散策

vol.16

戦災後の仮社殿

昭和二十年七月十六日午後十一時頃から翌十七日の未明にかけて、二・三日続いた雨も上がり晴天となった大分地方に米軍爆撃機が襲ってきた。本殿や拝殿など境内建物の多くが被弾により炎上。くすぶる中、焼け残った神楽殿に神輿を据えて御神霊を奉遷し、直後の夏祭りをなんとか実施したと記録が残っています。

終戦を経て、地域の拠り所となる氏神様の御復興を、と一丸伍兵衛氏を会長に奉賛会を組織して仮社殿の整備にかかりました。本殿は別府公園にあった温泉神社の社殿を、そして拝殿には幸いに焼け残っていた絵馬堂(旧拝殿)を利用。当時のお金で約三十万円かかりましたが、昭和二十三年十二月二十七日の遷座祭へと至りました。

その後、戦災復興事業として現在の社殿が竣工するまでの二十年間、この仮社殿は神前挙式を始めとして、大分市民の大切な人生儀礼に関わる役割を担い続けました。そして今日、この建物は社殿東側に神輿蔵・絵馬堂として残されています。

